



ていだん 新春鼎談

子年の今年、加西市に明るい
話題がいっぱい

希望に輝く平成 20 年。仕事始めの 1 月 4 日、中川市長、桜井市議会議長、丸本商工会議所会頭に、それぞれ新年への抱負を語りあっていただきました。



▲加西の明るい未来に向けて決意を新たに三者。
(左から桜井議長、中川市長、丸本会頭)

市長：昨年は、百条委員会、市長失職、出直し選挙などで市民の皆様には色々ご心配とご迷惑をおかけいたしました。再選後も、40 周年記念式典の開催、加西病院問題への対応などに追われた、大変忙しい一年でしたが、男女共同参画都市へ向けて大きく歩み出せたこと、加西病院産婦人科の分娩が再開できたこと、加西にも漸く 5 つの NPO 法人が誕生したことなどは明るい話題でした。

また、昨年 6 月に全国の市町村としては初めて、エコアクション 21 の環境認証を取得、9 月には加西ブランド協定を締結しました。廃食油の回収事業に続き、今春からは、いよいよバイオディーゼル燃料の製造を開始します。

議長：原油の高騰によるガソリン、灯油をはじめ、私たちの生活必需品の値上げが相次ぐ中、加西市においても公共料金の値上げが予定されています。

そのような中、老朽校舎の建替えや少子化対策、加西病院の問題など、課題は山積していますが、一致団結して加西市の発展に取り組む必要があります。

会頭：昨年までの第 7 期中は、会議所の基盤の再構築をしながら改革にも取り組んできました。昨年は、加西市、JA 兵庫みらい、加西商工会議所の三者による「加西ブランド協定」を締結、加西市の特産品を紹介するウェブサイトの創設等、地域資源を活用した産業振興の礎が出来たと思っています。しかし、原油高の中、地域格差や業種別格差が解消されず、特に中小零細事業者にとっては、まだまだ厳しい状況が続いています。今年はぜひとも加西から全国に発信できる立派な特産品を作っていきたいと考えています。

加西病院については、市民が安心して暮らせる医療体制を、是非作っていただきたいと思っています。

市長：昨年末に加西病院の産科再開後、第一号の赤ちゃんがベトナム人夫妻の第一子として生まれました。分娩の

再開は、産婦人科の廣瀬先生の強い決断があったからですが、助産師はじめ、病院全体の理解と協力があったから実現できました。市民の皆さんにご理解いただきたいのは、加西病院のマタニティセンターは、ホテルのように快適で居住性の高いところで、安心して産めるということです。28,000 人もの署名をいただきそれを受けて再開させたのですから、是非利用してください。

本日、病院での仕事始め式で、私は患者を待たせないことを目標にしてほしいと言いました。加西病院に行けば初診でも、余り待たされることなく診察してもらえるようになれば、それだけで加西病院が注目されて、「ああ、加西病院に行こうか」ということになるのです。

議長：廣瀬先生 1 人で産婦人科を再開していただいて、市長の努力もあったと思いますが、山辺院長にも感謝申し上げたいと思います。もう少し欲を言うと、もう一人産婦人科の先生に来ていただきたいですね。また、一般会計からの繰り入れも増やすなどして、地域の拠点病院として、絶対に存続させてもらわないといけません。

会頭：病院の課題は、市民にとっては身近で大きな問題です。商工会議所の立場から考えると、元気なまち加西を作ることを目指していますが、それには生活のインフラが必要になります。そして、産業団地に企業を誘致し、とにかく人が加西に寄ってくる仕掛けをつくることによって全体の底上げができ、加西が元気になると考えています。絶対的な集客力を持っているイオンが進出してきますが、イオンと既存の商店街とが共存共栄できるまちづくりをしていく必要があります。

市長：地元商店街や個々の店の持ち味や、強みを伸ばさないといけないと思っています。

また、地元加西でこれだけ美味しい野菜やお米が生産されているのですから、地元の資源をもっと活かして地産地消を進めれば、輸送のための CO₂ も削減でき、地球環境対策にもなります。

会頭：環境ということについても配慮した動きが必要です。

議長：これから CO₂ の削減率を金で買う時代です。加西市は、菜の花を植えたり、菜種の油を再利用した BDF 事業など、様々な先進的取り組みをしているのは、すごいことだと思います。

会頭：徐々にみんながそういうことに理解をしてきました



ね。これからは、行政と議会がうまく回っていく、そこに我々経済界としても一緒に対話と協調の精神で、加西のまちづくりをしていけば、うまくいくのではないのでしょうか。

議長：市長がこういうイメージで事業をしていきたいと、議会の方にも相談していただき、対話して理解しながら、また商工会議所の方とも連携をとりながら、市民が安全で安心して暮らせるまちづくりを考えていきたいと思っています。



市長：市長に再選して以降、丸本会頭のご理解もいただいて、「市政懇談会」を立ち上げることができました。市長、議長、会頭などが月 1 回懇談して、当面する行政課題や意見交換をさせていただいています。これは事前協議ということではなく、加西市の将来をどうするかという大所高所の議論がフランクにできるようになったと思っています。

私は、自ら加西市の営業マンとして、加西市の技術・物産・観光・文化・芸術などを PR し、企業誘致にも引き続き力を入れていきたいと思っています。加西市の行政が効率的で、企業や市民のニーズをすぐに汲み取り、手を打っていただけるような行政であれば、もっと企業が進出してくると思うのです。

会頭：市民の声を市長や議長が聞かれたら、馬上の行動で走りながら次の手を打つという素早い対応こそ、市民から信頼を得るために重要なことだと思います。

議長：今、両産業団地に企業が張り付いて埋まってきたら、市税も入ってくるし、次は鶴野飛行場の跡地をどうするか重要な課題ですね。

会頭：もう一つ、阪神大震災の影響で話が途切れた青野原の住宅団地もありますね。

市長：飛行場跡地は、今年国との本格交渉に入ります。住宅団地については、県の住宅供給公社や土地開発公社に対して、市内での開発に力を入れてもらいたいと要望しています。そして法務局の跡地利用も課題としてあります

会頭：青野原に住宅、鶴野飛行場跡地、それから法務局跡地と 3 つそろえば、将来加西市は夢のあるまちづくりが描けるのではないかと思います。

議長：県の新行革プランの影響もかなりあります。加西市も 4,300 万円ぐらいと言われていましたが、福祉面とか教育面にだいぶカットあります。

市長：県の福祉施策については、1 年間は移行期間として現状の水準を維持してもらえやに聞き及んでいます。教育や子育ては、私も一番力を入れたい分野です。選挙前か

らこの分野にお金を優先投入するということを私は言ってきたわけですから。従来のハード事業は抑制して、その分を将来のための教育投資、子育て分野に税金を回すよう努力します。

会頭：今回、産業団地に進出を予定されている企業から、下請けをしてくれる企業を紹介してほしいという問い合わせが会議所がありました。我々も情報を十分提供して組織力の強化につなげたいと思っています。

議長：会員が増えるためには、会議所に入ったことによってメリットがあって、仕事が増えるなり、情報が広がったりすることが必要です。

市長：企業の潜在的なニーズに応えて、情報交換の場として、産業団地に進出した企業との協議会を去年スタートさせました。インフラは、5 年先 10 年先を見越して整備しておかないとだめです。土地造成が終わったからこれでインフラ整備ができたというものではありません。加西市内の情報インフラの遅れは何としても克服したいですね。

議長：加西インターと加古川北インターとで、本当に加西はよくなりました。後は幹線道路が整備されれば、ますます交流が図れることになります。

会頭：今年を中心市街地活性化の協議会で、あらゆる角度からの問題提起を受けて、市なり議会に諮問に行かないといけないと考えています。今やっている地域商品券も 3 年間の経過を見ると大変好評であり、地域の商工業の振興に十分貢献しているのではないかとと思われるので、今年も市の協力を得て、協議会の中の 1 つの事業として出来ればと考えています。



市民の幸せを考えていくのが行政であり、我々商工会議所としても考えなければならない問題です。地域の底上げをして元気が出るまちをつくらなければなりません。このようにいろいろ話し合っただけでその中で舵取りが出来たらと思っています。

議長：いろいろと情報交換をしながらですね。市長はアイデアマンですので、たくさんアイデアを持っておられます。そのアイデアがもっと活かせるように期待しています。

財政難のおりですが、色々工夫をさせていただいたおかげで、財政も改善してきています。2008 年は、本当の意味でいい年になることを願っています。

市長：では、加西を魅力的で元気なまちにするために、今年も全力で業務に励みますので、よろしくご指導ご鞭撻賜りますようお願いいたします。